



C：ローマ数字で100を表す

人類滅亡12のリスク

①	極端な気候変化（飢饉、社会崩壊による移民増加）
②	核戦争（突発的なものを含む可能性）
③	世界規模のパンデミック（人の往来の激しさ・速さ）
④	生態系の崩壊（生物種の絶滅）
⑤	国際的なシステムの崩壊（経済危機や貧富の拡大）
⑥	巨大隕石の衝突（寒冷化や生態系の破壊）
⑦	大規模な火山噴火（日光遮断、寒冷化）
⑧	合成生物学（人工的な病原体の生成）
⑨	ナノテクノロジー（ナノテクによる小型核兵器を開発）
⑩	人工知能（制御不能になるロボットの出現）
⑪	その他の全く未知の可能性
⑫	政治の失敗による国際的影響

◆巻頭言

この春、英国オックスフォード大学等の錚々たるメンバーが発表したレポートがこれである。①. ②. ③. ⑥のリスクは、SF 世界の様な出来事が並んでいる。実際、西アフリカで発生したエボラ出血熱に世界各国は③パンデミックの恐怖を実感した。⑩のリ

スクは、映画ターミネーターのような世界であり、⑪のリスクの内容は「人類を不妊にする超汚染物質の開発」「人口ブラックホールが開発され、地球をのみ込む」「動物実験により人類を超える知能を持つ生物が出現」「誰かが地球外生命体（E・T）にコンタクトし、危険な異星人（エイリアン）を呼び寄せる」など。こうなると、映画「E・T」「猿の惑星」「エイリアン」の世界だが、起然災害が続いている。人類滅亡のリスクは至る所に転がっている。がしかし、いつくるかわからぬ恐怖に恐れおののいても、仕方がない。明るい未来を見つめて生きていっただけだ。今我々が作業をしている瀬上の森も、100年後の子供達に引き継がれていくことを信じ、汗を流しましょう。

（渡部文博）

次回の予定 ● 27年11月活動予定

◇27年11月の活動予定

① 11月8日（日）9時～14時 ・集合場所 池の下倉庫

◇作業目的：管理型スギ林を目指した保全作業

・作業内容：いっしんどう作業エリア A2-3 の保全作業。

『谷戸の子供教室』の開催：9時半～12時

・主木（スギ）の欠損木・枯木・弱小木の除伐作業。

・アオキ、シロダモ、フジツルの除伐、駆除作業。

- ・子供達への間伐、除伐体験講習。
- ・持ち物 常備具（カマ・手ノコ・ナタ）、お弁当、飲料水、防虫剤、他必需品
【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェーンソー、ロープ

※注意：講座開催準備の為、集合時間を30分早めてあります。

② 11月22日（日）9時～14時 ・集合場所 池の下倉庫

◇作業目的：管理型スギ林を目指した保全作業

- ・作業内容：いっしんどう作業エリア A2-3 の保全作業。

『緑の体験教室』の開催：9時半～12時

『ボラ塾生の間伐体験』：9時半～12時

- ・主木（スギ）の欠損木・枯木・弱小木の除伐作業。
- ・アオキ、シロダモ、フジツルの除伐、駆除作業。
- ・子供達への間伐、除伐体験講習。
- ・ボラ塾生の間伐、除伐実習。
- ・持ち物 常備具（カマ・手ノコ・ナタ）、飲料水、防虫剤、他必需品

【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェーンソー、ロープ

※注意：講座開催準備の為、集合時間を30分早めてあります。

※連絡：22日のお弁当は樹林地部会で用意します。

(27年12月号の原稿に関し、上記活動報告は野沢氏、巻頭言は渡邊氏、リレートークは竹内氏です。原稿の締め切りは27年11月24日(火)、小宅氏迄宜しくお願いします。) 欠席される方は、メール(TOKAMI6666@aol.com)又は電話(894-2800)で山上部会長迄。

【瀬上さとやまもりの会 活動日誌】

(1)平成27年10月25日(日) 曇り 9:30～14:00 A2 いっしんどう付近

参加者：山上, 伊藤, 小宅, 枝村, 渡部, 高嶋, 佐谷, 三島, 浅見, 高嶋, 竹内 計11名

活動内容：ササ他の草刈り、来月8日(日)谷戸の子供教室の準備、枯れ木・倒木の伐倒、
来月活動内容の検討



作業前,次回研修地確定



作業中



チェーンソーで古木処理

◆ リポートーク 今年を振り返って

今年も忘年会という言葉が聞こえる時期になって来ました。平成 27 年度もあと 2 か月足らずです。ちょっと早いですが今年を振り返ってみると日本列島、気象が異常で自然災害が多かったように思われます。新年早々から東北地方の大雪で始まり、春は集中豪雨による被害の多発、夏は記録的な猛暑になり、熱中症で倒れた人が大変な数になりました。秋には大雨で河川の堤防が切れて大きな災害になっています。それに火山活動が活発になって観光地が大きな被害を受けております。また、沖縄県の与那国島を襲った台風 21 号は瞬間風速 81 メートルだったそうです。昔、石原裕次郎の歌に「風速 40 メートル」という歌がありましたがその当時、風速 40 メートルなんて風は考えられないと思っていました。それがその 2 倍の 81 メートルです。各地の被災者の皆さんには“お気の毒様、頑張って下さい”としか言えようがありません。鬼怒川の決壊では東日本大震災の津波で流され、避難してきて、その避難先でまた水害にあったという不運な家族もいました。この自然災害の発生は地球温暖化の現象という人がいますが私にはよくわかりません。このような異常状態の自然災害が通例になって来年以降も繰り返さないことを切に願うだけです。

幸いなことに私は今までそのような災難には遭遇したことは自分にも身内にも一度もありません。正直言って天災や災害は自分には関係ないと思っていました。全くの他人事あり、あまり関心がありませんでした。それが最近、なぜか災害が自分にも降りかかってくるような気がしてなりません。明日は我が身と思うようになって来たのです。万が一に備えて何かをしなければというような防災意識にチョピリ目覚めたようです。防災用品や食料の購入、地域との連携、避難場所の確認をしなければと思うようになってきました。後れ馳せながらポチポチやらねばと思っております。不慮の事故や災難に対しては「自分のことは自分が守る」ということが基本だと思いますが地域の人たちと協力して頑張るしかないと思っております。

佐谷光雄

◆ 編集後記

木枯らし 1 号が吹き、今年も年末が迫ってくる。しかし、抱えている仕事が片付いて行かず、かえって増えて行く感じさえ持つ状況が続いている。来年こそは、さとやまの活動に参加出来る様に諸々の仕事の整理を進めようと考えている今日この頃です。

(押木)